

古今物語

全



席

いふとあるむたゞ目のたがきころ

とばおぼえろ
わがもぢ
 吾屋
えぞうぢやう
 諺ゆき
 乃主人

ひとは まご の 案 あ を くりて まゝ くり つらぐ の 序 かき 書 せ

しんていりふきつるれそむし

あり物忘れたる事ぞいふるにふりて

かむちのいさそのあやふしれあつる

すさくたの月々ぞあそびあそび
さうなれたる世屋のきこえしあそび
夜よりわたるよもきれしきこえし
かいまうして彼の人みきられ人み
いそぎながれしきこえしあそび
是よりあそびのきこえし



あれの神乃重きはとやせぬひと。ならあられ
がさふ人とも。ぬらむ。只あれとくくと。と。と。と。
よみ。ゆり。え。神文のむね。か。くの。と。と。と。と。と。
おぼさん。は。月。を。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
し。な。え。これ。ぬ。乃。ひ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
あ。う。勝。ふ。乃。び。た。右。の。耳。肩。も。押。よ。う。と。と。と。と。と。
九。三。十。五。これ。と。の。く。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
お。い。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。

またとやせぬひと。ならあられ
がさふ人とも。ぬらむ。只あれとくくと。と。と。と。
よみ。ゆり。え。神文のむね。か。くの。と。と。と。と。と。
おぼさん。は。月。を。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
し。な。え。これ。ぬ。乃。ひ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
あ。う。勝。ふ。乃。び。た。右。の。耳。肩。も。押。よ。う。と。と。と。と。と。
九。三。十。五。これ。と。の。く。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
お。い。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。

とつひく男をやあひとされまう

○他の家とお厚く願ふ人。健忘といふ病あり。く
くくく。それとみくおしをなす人。病くみかき
公と忘れまう。汗白られはらうづひうつとゆきたる
ちやうん。

○大政入るに盛んハ。ねとろーきまのと忘れまう。

○何れ姪女乃あつた忘れまうがわうーか。人それその女が公
の奥と何れとゆーがく。我あうえんとぞ往通ひる。

○今ハ昔。富家の姪女。家の忘れまう。人まよふとわき
まのいりあり。奥のよりりのわうる人。姪女よ

あひーが別る時。物つうーく。又あひんまどるどいけ
ま。彼姪女られとみくぞわひいおあんとつ。傍に新あ
うたのく。居る。是をば居るが。縁はあふてかくねん。
わひいおんとハ忘るからよ。あひいおと忘れなよ。とうたひて
わくける。汗白あふ。姪女忘れまう。伝をたつて。

○親の忘るにわうて。奥次喰ふ。忘れく。わが罪。海に。ええ
く。合ふ。難あう。か。一休和尚。あひい。れば。一休。何とや
いふ。わうーが忘れう。とぞ。

○冬ハ妻を忘れ。妻は冬とことそ。原。

○将くハ。昨を忘れ。愈そハ。醫を忘る。汗白あふ。そかくのど。

○ 播磨乃西よりとも物忘れず人ばかりき。

○ たり敵はよく討つれど門のあし。うづまたる。捨をわ忘れ
おきけるは。まじり。物さるが。うづ。といふ人あり。傍人曰
それハ。お討乃なり。いなり。評曰。お。は。陰と忘れん
や。

○ ころに男。およいひけられく。むもわして。佐ぬる。さ。海とあー
お。た。ご。ま。え。た。れ。バ。男。あ。と。ゆ。と。て。

あ。ま。ハ。秋。も。あ。ひ。一。今。一。海。が。あ。と。な。る。ハ。秋。も。あ。れ。ん
或。評。作。評。曰。七。通。八。達

○ 梅。重。休。雄。と。い。ふ。完。人。あ。つ。よ。く。能。の。毒。を。さ。る。ゆ。と。さ。る。る。

あ。る。む。ち。き。さ。と。め。一。て。今。お。害。あ。る。能。喰。む。と。の。さ。あ。あ。れ。ん
こ。と。く。調。へ。よ。と。作。れ。バ。休。雄。さ。る。ま。う。て。今。お。あ。り。お。お。り
く。は。り。る。が。俄。よ。年。耐。の。程。あ。り。あ。さ。う。は。お。あ。れ。つ。ま。あ。る
よ。大。切。の。た。て。ま。う。つ。お。る。れ。バ。能。つ。う。ゆ。の。ハ。許。一。た。ま。と
ヤ。く。ま。か。ん。で。る。評。曰。よ。

○ 或。人。星。威。と。い。ふ。さ。と。う。る。ゆ。と。あ。れ。く。その。あ。く。湯。よ。入。る。が。
神。と。あ。る。あ。ま。や。え。る。う。一。か。バ。大。声。を。お。し。く。我。い。く
あ。ひ。と。病。よ。わ。さ。り。た。り。移。る。神。め。せ。と。て。い。ひ。る。

○ 天。若。彦。と。い。ふ。神。ハ。天。照。大。神。神。の。御。使。り。と。西。國。よ。さ。り。る
が。大。汝。貴。乃。の。き。い。ひ。は。お。それ。も。照。雄。の。と。よ。あ。う。ひ。く。

七
終にけりごとくことを忘れり。

○きうてい 黄帝赤水のやうに遊びて。玄珠とある。おぼろしく
ゆゑんとてかきうたふ。象罔といふ大忘れ人あり。率いきて
とらかる。或人評曰これ 智慧これ なる小物

○遺却さんごのむらといふ 珊瑚白馬こころてゆか 驢ろ 或評曰遺却いさく かつくろ 諸情しよじやう

○伯鸞はくわん 並木宮乃天皇。武烈。氏ハミナ所みこ ありといふ。さう忘れ
させぬいなる。

○お忘れする媒まへ 彼いそひ 彼のせき 席みくら よいさくハ。ゆゑといふ大言おほいこと するべ。
ひけといふと習な ひうり。さう忘れどとたひい居ゐ らるが。

おぼろけいさく人々あかんとする時。は媒まへ 我われ おもあかりか
といひあかると傍かたわら の人むききいさくそれが虎とら とは忘れ
ばむとたひいさくあかりつゝあかといひくさる。

○おぼろけいさくとさる人々がさる目次をだてにさあ
りの評曰めい 眼め とささるハ。機はり のうちとみるさう。さあくハ
さうとたはさるさう。

○女三乃君小侍従よきとさるハ。いざとよみ。やどよう
さういさく。さうもえさあさる。さうもさみ。と忘れさう
と。評曰忘れさるハ。柏木の傍つをさう。なすさう。

○釋迦しやくぢや 牟尼佛むにぶつ 乃も 佐弟さてい 維い 丁てい ぐりやうりやう 集しゆ あり。時。あさ

ものこそせざるゝか。舍利井もが。餓^うたりに。仏香積^{くわうしやく}圓^{えん}より香積飯とてりよせくくもせり。舍利井^{舍利井}たらあち食念^{ききねん}と忘れり。或人^{あるひと}汗白^{あせしろ}をかるべ。草^{くさ}の飯^{いひめ}へー
○お忘れたる人々。が。ぬく。門^{かど}あ。御^ごを。ま。か。よ。か。よ。て。あゆむ。の。人。

○或人^{あるひと}山^{やま}跡^{あと}を。道^{みち}を。忘れ。く。あ。ぬ。ぬ。迷^{まよ}ひ。か。ー。か。ば。早^{はや}も。考^{かんが}へ。に。大^{おほ}き。の。り。う。つ。る。お。乃。あ。る。よ。入^いる。う。づ。く。あ。り。居。る。ち。ぢ。ー。あ。る。よ。人^{ひと}又。我^{われ}ど。く。迷^{まよ}ひ。あ。り。ぬ。飯^{いひめ}。こ。い。ん。ど。乃。忘^{わす}れて。ま。よ。ま。ー。の。人。と。い。ふ。さ。う。ぶ。と。く。さ。り。よ。ひ。き。い。ま。く。あ。り。と。る。よ。又。い。と。う。さ。の。ど。く。ー。て。ま。れ。り。な。の。ど。と。

い。ハ。道^{みち}を。忘れ。く。ま。よ。ま。つ。と。い。ふ。さ。う。ぶ。と。な。と。て。今。に。人^{ひと}ま。り。く。と。ど。う。と。り。と。る。よ。救^{きう}い。く。あ。け。た。り。と。お。ぼ。あ。る。ろ。大^{おほ}き。な。る。院^{いん}。あ。の。そ。う。の。り。を。ひ。ん。だ。り。く。その。三^{さん}人^{にん}を。の。ん。と。ま。る。耐^た。三^{さん}人^{にん}ど。り。お。南^{なん}無^む三^{さん}忘^{わす}と。り。あ。で。れ。け。言^{こと}の。り。と。て。お。あ。り。汗^{あせ}白^{しろ}を。せ。い。と。い。く。室^{むろ}の。字^じよ。書^かか。へ。たり。

○秋八月^{いづみづき}を。り。俄^いよ。お。思^{おも}ひ。た。く。あ。あ。く。あ。の。所^{ところ}あ。れ。と。あ。み。し。に。船^{ふね}ハ。百^{ひゃく}艘^{そう}あ。り。は。よ。ち。づ。み。人^{ひと}ハ。千^{せん}人^{にん}あ。り。死^しう。せ。る。と。き。唯^{ただ}ス。上^{うへ}の。船^{ふね}の。ほ。よ。お。の。も。つ。き。た。る。船^{ふね}お。つ。り。お。ぼ。よ。ま。け。ば。り。の。ど。く。船^{ふね}あ。ー。く。い。ま。か。の。あ。と。ぞ。汗^{あせ}白^{しろ}あ。る。る。が。葉^はあ。り。

金
細

○みまに室町はあつたよ。どい十えうりる老人あり。
けを人丹とやせらるよ。その丹よりめる箇のいくとせ
るかり朽ぢるなりづーとて叫ひれば。箇へ入るとと
ききく。曰。おれを七十年候うハなりづーとて。い老人
て。海老かてけあづーとていひる。俵白けを人我を
あれとて。

○零飛く天よりとて。お彼と捕へく。く知ひつるよ。
抱きだつて。く喰んとする。あも飛来。あそく
の。くハあれとて。

○筑紫よりく恒々人なり。

わぬがる鄙に人々恒々みまにぞうあらる

俵白をもく。おの風俗といふハ。常くむきひ。低くむきひ。
髪ハきくゆいひきくゆい。お織又も短。たとみまこ
恒々とも。おんゆいひまハ。とて。

○右近の将ときええ。おちくわの君なり。ふいそ。ゆ
たのい。ふ。常々人あれ。おと。と。人つかう。た
ま。き。と。人あれ。い。れ。と。おちくわの君

○或武士と人の使よりきく。おちくわの君なり。ふいそ。ゆ
たのい。ふ。常々人あれ。おと。と。人つかう。た
ま。き。と。人あれ。い。れ。と。おちくわの君

も涙はうそくかきたるふ。むとそめくはくくとみされ
る。洞ふ。人あまされば。あうく使のむひとやけりぬ。そ
は名とつれくありひとやう。あふ。楠多門。きつとそ
る氏。はく。かびありひ。か。今。一度。承らん。とひひか
さる。むとありひ。か。どそ。もさわが。楠多門。きつと
いひる。や。う。ふ。人。う。く。又。その。返。り。と。の。さ。か。う。さ。
使。人。乃。り。ふ。か。り。て。り。氏。や。け。り。お。ね。書。と。あ。う。く。
今日。あり。家。乃。る。名。あ。う。く。も。返。く。楠多門。きつと。は。り。た。
といひ。か。う。さ。れ。ば。主人。あ。う。く。み。ひ。く。何。所。と。作。お
され。る。所。今日。なん。中。使。の。さ。た。あ。う。く。さ。る。ゆ。さ。う。う。と

や。う。これ。ば。主人。あ。う。く。人。あ。う。く。他。の。は。物。忘れ。る。る。ふ。
工。を。け。れ。正。成。乃。圖。は。む。び。う。む。れ。う。い。と。あ。の。り。き。志
れ。と。け。り。て。領。事。も。加。増。物。は。ま。さ。あ。う。く。あ。う。る。

○その果となれば。物。負。せ。た。る。人。負。て。る。人。乃。り。ふ。た。ち
か。る。負。て。る。人。ハ。領。事。も。る。人。の。許。は。い。ひ。う。く。或。さ
る。び。さ。ら。い。ハ。あ。う。く。或。ハ。さ。び。あ。う。ひ。ハ。け。り。そ。あ。う。く。あ。う。る。
は。さ。ら。う。く。日。数。い。と。あ。や。う。ふ。う。の。か。れ。ば。ね。使。風。も。ど
ろ。ろ。く。人。く。先。ハ。忘。れ。る。顔。色。あ。う。く。

○お。ち。み。さ。る。長。あ。う。く。ひ。と。り。の。母。死。る。ふ。逆。身。さ。う。ち。家
さ。か。さ。お。う。せ。よ。と。い。ひ。た。れ。ば。い。ま。せ。ま。う。と。い。ふ。何。所。と

亭主^{ていしゅ}旅人^{りょじん}よきるんまぐくをせらる。物くゆとこれバ。
よく秋^{あき}物とらち^{よさ}あひくつもの。ほよめり^{カガミ}ハこれ
てのりるなり。評曰^{ひやういふ}は亭主もまぐくつむよこそ。

○白^{しろ}い^い風^{かぜ}と^と同^{おな}い^い。よく^{よく}列^{うれ}と^とぶ^ぶり^り。が^がま^まき^き風^{かぜ}は^は泉^{いづみ}水^{みづ}
くられ^くは^は被^お列^{うれ}。人^{ひと}を^を忘^{わす}れ^れるなり。

○吾^{われ}近^{ちか}が^が人^{ひと}と^とち^ちが^がう^うる^る。男^{おとこ}ち^ちが^がう^うと^と忘^{わす}れ^れる^るなれバ。
ち^ちら^らる^るめ^めと^とち^ちが^がう^うる^る。人^{ひと}の^の令^{しやう}れ^れ惜^{しやう}くも^もあ^ある^る。

評曰^{ひやういふ}実^{じつ}体^{たい}——

○惟^{ただ}雪^{ゆき}主^{しゅ}御^ご指^{さし}ぬ^ぬ。の^のい^いく^く日^ひ若^{わか}乃^の山^{さん}の^の藤^{ふじ}は^はあ^あり^りれ
と^とめ^める^る。雪^{ゆき}路^じを^をけ^ける^る業^{わざ}果^はた^たし^しあ^あり^りな^なあ^あひ^ひく。

ちれて^ち後^ごか^かと^とお^おひ^ひき^きる^るま^まみ^みけ^けく^く思^{おも}は^はる^るん^んと^とハ
評曰^{ひやういふ}。冬^{ふゆ}集^{しふ}乃^のち^ちか^か。ち^ちれ^れつ^つと^とほ^ほと^とこれ^{これ}バ。と^とハ^ハの^の同^{どう}め^めや^やう^う。
そ^それ^れり。

○ち^ちら^らる^る人^{ひと}二^{ふた}人^{にん}と^とよ^よめ^めき^きく。お^おう^うく^く洞^{どう}と^と落^{らく}意^いを^をけ^ける^る。
い^いく^くの^の男^{おとこ}客^{きやく}の^のあ^あつ^つな^なる^る。今^{いま}は^はう^うは^は飲^{いん}取^{しゆ}な^な之^{これ}
と^とお^おの^の男^{おとこ}や^やと^とを^を擇^{えら}う^うて。は^はか^かも^も忘^{わす}れ^れつ^つと^とふ^ふ。あ^ある^る。
み^みう^うく^く飲^{いん}を^をお^おー^ーて^てう^うる。お^おう^うい^い終^{しゆう}う^うと^とゆ^ゆる。お^おう^う
いつ^{いつ}た^たる^る。う^うら^らに^に。時^{とき}ハ^ハ三^{さん}時^じあ^あり^りと^とあ^あれ^れど。お^おう^うの^のあ^あう^うけ
せ^せう^うー^ーか^かバ。湯^ゆ屋^やは^はお^おう^うと^とほ^ほく^くお^おな^なれ^れバ。二^{ふた}人^{にん}の^の男^{おとこ}う^うち^ち後^ご
ま^まく^くお^おう^うき^きの^のう^うバ^バと^とて^てお^おう^うの^のハ^ハ集^{しふ}り^りて^てあ^あれ。そ^そハ^ハあ^ある^る。

思ひたる中を思ふれといひのちなる。

○ある世少ゆきよ。鹿の射られたるがうとある。あつて
あつたつれて死ぬ。そのあつちとうがらう。鹿とがら。思
さうちのけく。人えきく。あつたなる。終るあつた
あつたなる。そのあつたなる。あつたなる。あつたなる。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

○あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

えんや。

○あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

○あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

昔人喰ひのりもあつてよきとてさうぞうみされが翁よりあ
つぞ。といひてあつたはまゝに忘れぬ。といふはなるやあまひ
てとておとくさうなる。おほいしきとてなごころはけりさればさハ
あまひ其佐よハかへぬ。なごころとて　さうば忘れハあまのり
てうといひてさうとてさうさればさハ秋とてさうとてさういひて
さうなる。とてさうたさう又さうなるさうさうなる。おほいしき
さうば忘れハあまのりてさうといひてさうさうとてさうさう
といふ。翁何のりさうせむ。いふは八十はあまのりむいさうなるに
あつてさうさうとてさういふ。おのりさうさうさうさうとてさ
うされば翁。

あまのりこれぞさういふに翁もあつて

といひかれはあつて

あまのりさういふれ忘れがやうとてといひて今ハ追ひが

たり。今日今の信ふおほいハ忘れぬ。

○あまのりさういふに餅とてさうさうハ翁をバおのりさういふて
たれられさうまづあまのりさういふと忘れぬとて飛ぬ。あまのり
してさうと忘れぬさうさうとあり。又あまのりさうさうと忘れ
ておほいさうさうとてさうあまのりさうさうと忘れぬとてたれあり。
此と忘れぬとて翁のり。おほいさういふ人今日つてあまのり。

明和九年辰正月

所幸町五仁光寺上丁

吉野屋七兵衛

同助

梅村 宗五郎

堀内屋三上丁

浅井 庄左門

行 棹

